

# サポクラ 通信

令和5年(2023年)12月号

今月の内容は...

- ・アメリカビーバーについて .....1
- ・冬眠のはなし .....3
- ・ドンのこと .....7

# アメリカビーバーについて



サポートクラブのみなさんこんにちは。アメリカビーバー担当の町田です。  
今回は、アメリカビーバーの特徴や生態について紹介したいと思います。

## 特徴的な尻尾

ビーバーの尾には5つの役割があるとされています。



### 1 泳ぐために使う

前に進むための推進力としてではなく、後ろ足でバタ足をしながら方向転換をするのに尻尾を使います。

### 2 栄養を蓄える

体にも脂肪として栄養を蓄えることができますが、尻尾にも蓄えることが可能です。

### 3 体を支えるのに使う

物を運んだりするとき、後ろ足だけではなく尻尾も使って体を支えます。

### 4 警戒音を出す

プールにいてビート板で水面を叩くと大きな音が出ることを知っている方もいるかと思いますが、それをビーバーは尻尾で行います。現地では銃声のような音と言われるくらい派手な音を出して仲間に危険を知らせるとともに、外敵を驚かしてその間に水の中に逃げます。

### 5 体温調節

人が体温を下げるには、血管が皮膚の表面に近い首や脇を冷やすとよいのは、ご存じかと思いますが、ビーバーで、その役割を担うのが尻尾です。尻尾には、ほとんど毛が生えておらず、鱗状の皮膚をしているので、ここを冷やすことで体温を調整しています。

## ビーバーと人との共通点

ビーバーは齧歯類げっしるいとってネズミの仲間です。しかし、ネズミの仲間ではありますが人間との共通点もあります。

それは、人間以外の哺乳類で唯一自分の住みやすい環境を自分で作ることのできる動物だということです。この力は凄まじく、流れのある川だった場所を池に変えて湿地にしてしまい周りの環境をがらりと変えてしまうほどです。

そして、ここが共通点でありながら少し違うところで、私たち人間が建物や街を作ると環境破壊という言葉がどうしてもついて回ってきてしまいます。しかし、ビーバーは人間とは逆にビーバーが池を作ることによって新しい生態系ができあがり、ビーバー以外の生き物が集まってくるようになります。個人的にこの部分は人間が見習った方がいい部分だと思っています。

これらのことから北米の環境を守るにはビーバーを守ればいいのかと考えられていて、環境保護のキーマンになるのではないかとということで研究されている動物でもあります。

## 最近の「たんぽぽ」の様子



当園では、「たんぽぽ」と呼ぶビーバーを飼育しています。

最近の「たんぽぽ」は、日が出ている時間が短くなったのと、飼育場の温度を暖かくしているためか、夏よりも活動開始時間が早くなっている傾向にあります。調子が良ければ2時から3時ごろに活動していることがあります。

運が良ければ飼育員が給餌している根菜中心の野菜や園内から取ってきたヤナギの枝を一生懸命食べている様子を見ることができます。

よく見ていると今の「たんぽぽ」が好きなものがわかるかも！？（担当者もたまにわからなくなります）

夜間に泳いだり割と大きめの枝を移動させたりしている跡も見られますので、今年で23歳と高齢で少し痩せてきたりなどもしていますがまだまだ元気に過ごしています。

# 冬眠のはなし

円山動物園サポートクラブの皆様、いつもご支援ありがとうございます。

ニホンザル・エゾヒグマ・コウモリ担当の石井です。

今回は冬眠に関するお話をします。

冬眠は餌が少なく寒い冬を乗り切るために、体温を下げ、なるべく動かず冬期間を過ごす動物の生態です。冬眠といえば、冬になると眠りにつくというイメージですが、詳しく分けるといくつか種類があります。

深冬眠：体温を下げて動かない。

餌貯蔵型冬眠：たまに起きて、貯めておいた餌を食べる。

脂肪貯蔵型冬眠：体に脂肪を蓄えておき、その脂肪をエネルギーに代えて過ごす。 など。

このように一概に冬眠といっても、動物種によってその形態は異なります。

同じリス科でも、エゾシマリスは冬眠するのに対し、エゾモモンガやエゾリスは冬でも活動します。

エゾヒグマの冬眠は数か月の間全く飲まず食わず、糞尿もせず、にもかかわらずメスはその間に出産し授乳もします。（ヒグマの冬眠は脂肪貯蔵型冬眠にあたり、体温はそれほど下がらず、何かあればすぐに動きだせる浅い眠りが続いている状態のようです）



私の担当動物では、エゾヒグマとコウモリが冬眠します。

コウモリは気温が下がったとき、体を震わせて体温を上げて活動します。この時エネルギーを消費し、さらに飛翔するのにも大量のエネルギーを使います。そのため、普段は体重の3割ほどの量の餌を一晩で食べてエネルギーを確保していますが、冬になると餌となる昆虫が少なくなり、十分なエネルギーを確保できなくなるため冬眠すると言われています。

冬眠場所は種によってさまざまで、民家の屋根裏や瓦の下、岩の隙間、洞窟、さらにコテングコウモリは積雪の中で冬眠します。



当園で展示しているクロオオアブラコウモリは現在冬眠中です。夏も昼間は寝ているため、見た目はほぼ変わりませんが、夜になっても起きず、餌も食べていません。冬眠中のクロオオアブラコウモリの展示は日本では当園だけです。是非一度ご覧ください。

エゾヒグマの方は、メスの「とわ」の冬眠準備を行いました。

秋ごろから「とわ」の餌量やカロリーを調整して体重を増やし、夏には130kgだった体重が175kgまで増加しました。



12月に入ると動きや反応もだんだんと鈍くなり、おてんばな性格の「とわ」がだいぶおとなしくなっていました。

餌を食べるのもゆっくりで、残しがちです。

そして本格的に冬眠時期に差し掛かり、12月13日、寝室に隣接している産室に乾草を敷いて開放しました。



試しに寝てみましたがいい感じです。

冬眠が始まると、「とわ」はご覧いただけなくなります。

「とわ」の冬眠中の様子はSNSでお知らせする予定ですのでご確認ください。

ちなみに、冬眠はさせないことも可能です。オスの大が冬眠していないように、餌の量や環境次第では冬でも活動します。

しかし、冬眠をする動物種が冬眠をしないと、繁殖行動に至らない場合があります。日本に生息している爬虫類や両生類などもそうです。エゾヒグマも冬眠中に出産授乳を行うため、今後エゾヒグマの繁殖を試みる場合も考慮して冬眠を試行しています。コウモリも、温帯に生息しているほとんどの種類が秋ごろ交尾して冬に冬眠、そして翌年の初夏に出産します。冬眠は繁殖のきっかけになっているようで、動物の繁殖を成功させるには、この冬眠がかなり重要になってくるのです。

最後に

寒い冬でも元気なのがニホンザルです。世界最北のサルで、英語ではスノーモンキーと呼ばれるほど寒さに適応した種類です。顔が一段と赤くなり、冬毛で身体がもこもこの姿、是非見に来てください。



今日も元気につまみ食いしている「もみ次」（左）と「すず次」（右）で締めくくります。

今後とも応援よろしくお願いいたします。

# ドンのこと

こんにちは、カバ担当の清水です。

6月17日にドンが死亡しました。

円山動物園に来園して以来、50年以上に渡りカバがどのような動物なのかを伝えてくれました。恐らくこれまで来園した事がある方はほとんど全ての方が一度はドンに会っているのではないのでしょうか？実際に私も幼い頃両親に連れられ動物園で見ていたカバはドンでした。その後も小学生頃の遠足でみたカバも、高校生の時にデートで訪れた時に見たカバも、大人になり両親と子供を連れて一緒に見たカバもドンでした。3世代に渡りカバの大きさ、声、動き、臭い等図鑑だけでは知りえないカバの魅力を教えてもらいました。最後に担当者としてドンと関わり学べたことを感謝したいと思います。

今回死亡に至った経過になりますが、

6月15日の朝、いつものように放飼するため屋外の扉を開放し、出てくるのを待っていたところ屋外に出る途中で転倒し、そのまま起立不能となってしまいました。

何度も自力で起き上がろうとしていましたが、転倒の際に前肢を痛めていたようで、顔を使って途中まで起き上がっては倒れると



いう行動を繰り返していました。

しばらく動けないことが予想されたため、この日から 24 時間体制で看護を開始しました。日差しを遮るために寒冷紗を張り、日中の乾燥対策のため適宜ホースで水をかける等少しでもドンが快適に過ごせるようケアを行いました。

横になっているためエサを食べる事ができず、水も飲むことができない状態だったため、リンゴ、ブドウ、オレンジ、ニンジン等でジュースを作りジョウロで直接口に流し込んでみましたが、ほとんど摂取できない状態となっていました。

16 日も状態は変わらず、寝たきりのため褥瘡（じょくそう：体重で圧迫され血流が悪くなり傷ができること。）ができてしまう事を防ぐため、体の下に乾草やクッション材等を敷きましたが、その日のうちに頭部に褥瘡ができているのを確認しました。

痛みを緩和するために鎮静剤の注射を実施していましたが、17 日に褥瘡の範囲が広がってきており、札幌市円山動物園安楽死処置実施ガイドラインに則り、このままだと苦痛が続き、回復が見込める状態ではないと判断し安楽死処置の実施をしました。

最後は心停止を起こす薬を投与する前に鎮静剤と麻酔薬を投与した時点で静かに息をひきとりました。



2004 年敬老の日



2005 年敬老の日



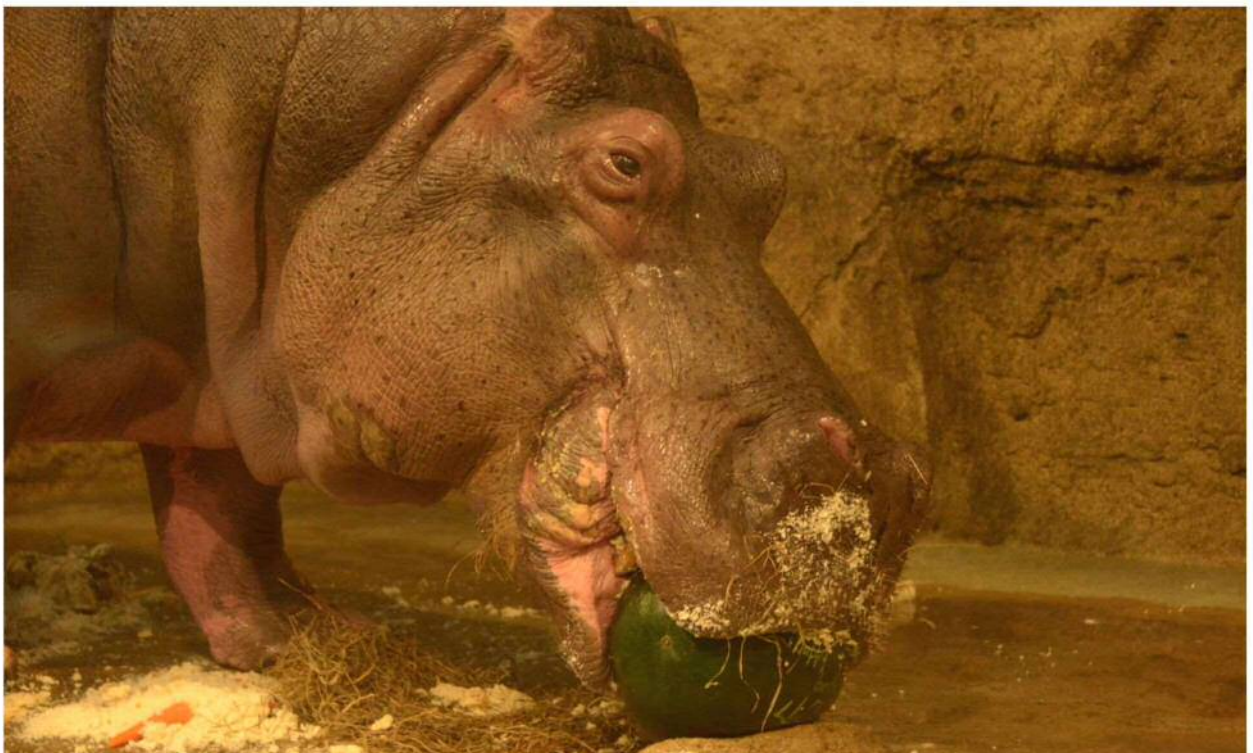
2010 年誕生会



2011 年敬老の日



2012 年誕生会



2018 年誕生会



最後に、長い間市民の皆様にも愛されてきたドンに、心からありがとう  
という言葉をおくります。皆様ありがとうございました。

